

JAPAN PRIZE NEWS

財団法人 国際科学技術財団

THE SCIENCE AND TECHNOLOGY
FOUNDATION OF JAPAN (JSTF)

〒100 東京都千代田区日比谷公園1番3号
市政会館内
電話03(3508)7691(代)



No.9
1991年7月

1991年(第7回)「日本国際賞」は仏、米2博士に 応用数学、医用画像技術の分野で



ジャック-ルイ リオンス博士

(財)国際科学技術財団が、世界の科学技術の進歩に大きく寄与し、人類の平和と繁栄に著しく貢献した人々を顕彰する1991年(第7回)日本国際賞の授賞式が、4月25日(木)、東京・国立劇場で行われました。

今年度の授賞対象分野は「応用数学」と「医用画像技術」の2分野で、世界各国の学者、研究者から応用数学分野が389件、医用画像技術分野が241件、計630件の推薦を受け、このなかから仏、米の2博士が、受賞者に選ばれました。「応用数学」では、分布定数系の解析と制御の研究、ならびに応用解析学の振興に貢献した功績により、コレージュ・ド・フランス教授でフランス国立宇宙研究センター(CNES)総裁のジャック-ルイ リオンス博士(62歳、フランス)が、また、「医用画像技術分野」では、超音波画像医学の開発における業績により、米国ミネアポリス医理学研究所所長のジョン・ジュリアン・ワイルド博士(76歳、アメリカ合衆国)が受賞しました。



ジョン・ジュリアン・ワイルド博士

JAPAN PRIZE



両陛下の御臨席を賜わり 厳かに授賞式を挙

授賞式は、天皇皇后両陛下の御臨席を賜わり、最高裁長官、文部大臣、科学技術庁長官ら官界代表の他に、在日外国大使並びに財界、著名な学者・研究者、言論界代表等約1,000名が出席し、厳かに挙行されました。

式典は、日本国際賞オリジナル曲「日本国際賞式典序曲—Overture Japan」(三木稔作曲)の演奏で幕あけとなり、伊藤正己財団理事長の開会の辞、近藤次郎審査委員会委員長による審査結果報告および受賞者の紹介、審査委員会各分野部会長の贈賞理由の説明に続き、両分野2博士に日本国際賞の賞状、賞牌および賞金5,000万円が横田喜三郎財団会長より贈られました。

受賞したリオンズ博士は、「このような格式の高い式典で、

この分野での活動と貢献が認められましたことは、この上もない名誉なことです」と感謝のスピーチをしました。一方、ワイルド博士も「予言者を予言と同じ時代に評価することは予言者の名誉となります」と述べ、同博士の予言的研究が40年にも遡って掘り起こされ、表彰された感激を伝えました。

華やかに春の宴

両陛下御臨席のもと祝宴開かれる

授賞式に引き続き、同日夜、東京・ホテルニューオタニにおいて天皇皇后両陛下の御臨席のもと、政府代表、在日仏、米大使をはじめとする在日外国大使および各界名士約400名を招いて、盛大に祝宴が催されました。

今回の祝宴は、彩り豊かな日本の春をイメージし、ヴィヴ

JAPAN PRIZE

天皇陛下のおことば(抜粋)



応用数学あるいは医用画像技術というような、科学を実際的な問題に応用する技術の進歩は、産業活動の発展、医療水準の向上などを通じて人類社会に大きく寄与するものであり、ここに、両博士の優れた御業績に対し、深く敬意を表する次第であります。

今日、科学技術は、多くの人々の協力により、目覚ましく進んでおります。この進歩が世界のすべての人々に幸せをもたらすよう私どもは努めていかなければならないと思います。第7回目の授賞式を迎えた日本国際賞が、世界の科学技術の振興に一層の貢献をすることを願い、お祝いの言葉といたします。



ァルディ合奏団による演奏を背に文字通り「春の饗宴」を演出しました。

横田会長の挨拶で始まった祝宴は、ディナーのあと受賞者両氏の栄誉を讃えて天皇陛下より乾杯の御発声を賜わり、続いて三権を代表して草場良八最高裁長官から受賞者夫人の内助の功を讃えて乾杯、花束の贈呈、また山東昭子科学技術庁長官による日本国際賞のますますの発展と世界平和と繁栄への寄与を祈念して乾杯が行われたほか、鈴木都知事、外交団を代表してネパール王国特命全権大使ナラヤン・プラサド・アルヤル閣下、受賞者両博士の国を代表して、在日仏国特命全権大使エヌキヌ閣下、同じく在日米国特命全権大使アマコスト閣下からも祝辞が述べられました。

最後に受賞者両氏がかつて学ばれた大学のカレッジ・ソング等を東京工業大学混声合唱団「コール・クライネス」が合唱、和やかな空気の漂う中、リオンス、ワイルド両博士がそれぞれ謝辞を述べられ、華やかな「春の宴」も終宴となりました。

日本国際賞週間

1991年「日本国際賞週間」は、4月21日から4月27日までの一週間。この間、国際科学技術財団は受賞式・祝宴の他、記念講演会を開催するなど各種行事を行いました。



総理表敬訪問(4月23日)



授賞者合同記者会見(4月23日於ホテルニューオータニ)



日本学術会議表敬訪問(4月24日)



東京での記念講演会(4月24日 よみうりホール)

JAPAN PRIZE

王立スウェーデン科学アカデミー広報部長 ビヨルン・ラスムッセン博士 日本国際賞行事に出席。



ノーベル賞（物理学、化学、経済学各賞）受賞者を決定する王立スウェーデン科学アカデミーの広報部長ビヨルン・ラスムッセン博士が去る4月に来日、10日(火)午後夫君共々、当財団を表敬訪問され、さらに滞日予定を延長され、4月22日(月)より始まった1991年（第7回）日本国際賞週間の主要行事に出席されました。同博士にとっては初めての日本国際賞行事ご参加でした。当財団川村常務理事が同博士から感想をお聞きました。

Q 授賞式、祝宴に出席されて、それぞれの一番印象に残った点を挙げて下さいませんか。

A 日本国際賞の式典進行はノーベル賞のそれとほとんど変わらないくらい良くできていました。

最初のスライドによる両博士の紹介は非常に良かったと思います。すばらしいアイデアです。受賞者の人間性が良く出ていました。

祝宴も大変良く企画されていたと思います。

また食事もうすばらしいものでした。

祝宴は形式的でなく出席の皆様が楽しく談笑されていました。

Q 記念講演会はどのようにお感じになりましたか。またその評価はどのように思われましたか。

A ノーベル賞の記念講演会に比べて講演内容はより一般的で聴衆も専門家はそれほど居られなかったように思います。

お二人の受賞者共、講演は分かり易く興味深く話をされたため講演会として成功していました。

Q 合同記者会見の折の印象はいかがでしたか。ノーベル物理学賞、同化学賞の場合の記者会見あるいは広報のやり方との違いはありましたか。

A ノーベル賞の記者会見は物理学賞、化学賞及び経済学賞に関して1回、医学賞に関して1回行われますが日本国際賞の記者会見の方が記者の数は多かったです。

また、質問の数も日本国際賞の方が多かったですし、内容も良かったと思います。ノーベル賞の記者会見ではほとんどの記者が個別インタビューを望み、そのため記者会見は静かすぎる傾向があり、どうしてももっと活発な質疑応答が実現出来るか私共にも分からないのが現状です。

1992年(第8回)「日本国際賞」 の受賞者審査始まる。

1992年（第8回）「日本国際賞」の授賞対象分野は「材料界面の科学と技術」と「生物生産の科学と技術」の2分野です。すでに世界各国から多数の受賞候補者推薦状が集まっており、現在、国際科学技術財団内に設けられた日本国際賞審査委員会によって審査が行われています。受賞者の発表は本年12月、授賞式は来年4月を予定しています。

「やさしい科学技術セミナー」 毎月開催

国際科学技術財団は日本国際賞の顕彰の他に、科学技術に関する知識や思想の普及・啓発をはかるため、内外の著名な先生をお招きして、毎月（原則として第4水曜日、於：星稜会館、千代田区永田町2-16-2、電話03-3581-5650）講演会を開催しています。

科学技術のいろいろな分野にわたり、タイムリーなテーマを、わかりやすくお話しいただいております。平成3年度の年間シリーズ・テーマは「身近な科学と技術—生活と安全の観点」で、12月までの予定は次の通りです。

講 師	予 定 テ ー マ	開 催 月 日
東京大学先端科学技術センター教授 軽部 征夫	食品をバイオセンサーで調べる	7.25(木)
国立防災科学技術センター 水谷 武司	防災の科学と技術 —災害をどう予測し防ぐか—	8.28(水)
国立公衆衛生院 田中 勝	「ごみ」の科学と技術 —快適な環境創造	9.25(水)
北海道大学工学部教授 丹保 憲仁	水の仕組み —良い水を求めて	10.22(火)
放送大学教授 本間 博文	科学する家 —新しい家屋のあり方	11.27(水)
上智大学理工学部教授 青木 清	動物の心とは —動物理解の手がかり	12.18(水)

